あなたの支援が健康を届けるチカラになります

ひとりでも多くの人へ健康を届けられるように、ぜひJOCSの会員となって継続的に活動を支えてください。
JOCSの活動に賛同される方は、どなたでも会員になれます。

会費の種別と会費額

社員会員　年10,000円以上の任意の額
　JOCSを構成する会員。総会の議決権、また理事の選挙権及び被選挙権をもちます。
一般会員　年5,000円以上の任意の額（18歳未満の方は、年2,000円以上の任意額）
　JOCSの活動を支える会員。総会の議決権や理事の選挙権、被選挙権はありません。
会員特典　会報誌「みんなで生きる」をお届けします。
　JOCS主催の勉強会やセミナー参加時に会員割引が受けられます。

入会・ご寄付の方法

郵便振替

ゆうちょ銀行
（口座：日本キリスト教海外医療協力会　募金部　00170-3-13986）
ご入会お申し込みの場合は、「入会申し込み」と払込票の余白にご記入ください。

銀行振替

三菱東京UFJ銀行
高田馬場駅前支店
公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会会長　小島荘明
口座番号：0831838
＊お名前とご連絡先を事務局までお知らせください。

クレジットカード

月々500円からご支援いただけます。
ホームページ（http://www.jocs.or.jp）よりお申し込みください。

＊銀行・ゆうちょ銀行口座からの口座振替（月々又は年払）もご利用いただけます。JOCS事務局までお問い合わせください。
＊当会へのご寄付、一般会員の会費は、特定寄付金に該当し、寄付金控除を受けることができます。

東京事務局（月～金　9:00～17:00、土日祝休み）
〒162-0045　東京都新宿区馬場下町1-1
早稲田SIAビル4階
電話：03-3208-2416　FAX:03-3232-6922
使用済み切手運動に関するお問合せ　電話：03-3208-2418

関西事務局（月～金　9:30～17:30、土日祝休み）
〒530-0013　大阪府大阪市北区茶屋町2-30
大阪聖パウロ教会3階
電話：06-6359-7277　FAX:06-6359-7278

Accountablity Self-Check2008

これは、「JANICアカウンタビリティ・セルフチェック 2008」マークです。JANIC（国際協力NGOセンター）のアカウンタビリティ基準の4分野（組織運営・事業実施・会計・情報公開）について当会が適切に自己審査したことを示しています。

公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会
Japan Overseas Christian Medical Cooperative Service

2013年度 年次報告書

2013年4月1日～2014年3月31日

みんなが健康に暮らせる
世界をめざして

公益社団法人
日本キリスト教海外医療協力会

皆さまとともに新しい歩みを目指して

日本キリスト教海外医療協力会（ＪＯＣＳ）をお支えくださっているすべての皆さまに、心からの感謝を込めて2013年度の年次報告をお届け申し上げます。

おかげさまでこの一年、ＪＯＣＳは、長期･短期のワーカー派遣、「プロジェクト・りとる」の推進、アジア・アフリカの保健医療の担い手を目指す現地の若い人々への奨学金支援を3本の柱とする活動を続けてまいりました。さらに、国内にあっても、東日本大震災や原発事故の影響を受けていまなお困難な日々を送っておられる東北地方の方々や子どもさんたちのために、ささやかな働きを続けております。

これらすべては、皆さまの熱いお祈りと、会費やご寄付によるご支援なしには成し遂げることのできないものでありました。特に、全国各地において行われましたＪＯＣＳを覚えてのイベントや、使用済み切手運動にご参加くださった、幼い子どもさんたちからご高齢の方々にいたるまでの多くの方々のお働きは、主イエス・キリストを通して示されました神さまの無償の愛とも相通じるものとして受け止めさせていただいております。

また、ＪＯＣＳは、2012年12月、理事のみならず、ワーカーや若手有志会員、それに事務局全職員による海外保健医療協力者会議（通称：ネクステ会議）を経て、2013年度にはさらに議論を重ね、今後5年間の歩みについて方向性を定めることができました。設立の原点に立ちながら、ＪＯＣＳの置かれている今日的課題に、皆さまとともにしっかりと取り組んでいくことができるようにと願っております。

しかしながら、昨年度は、ＪＯＣＳにとりまして辛いことも起こった年度でもありました。それは、2014年1月、長年のパートナーであるテゼ（バングラデシュ）のブラザー・フランクが天に召されたということであります。ＪＯＣＳ50周年記念礼拝に来日され、イスラムの人々を含む異なる信仰や信条をもつ人々とも、平和のうちに「ともに生きる」道のあることを示してくださったあの柔和なお姿を、私どもは忘れることはできません。

故ブラザーフランク（左）と小島会長（右）

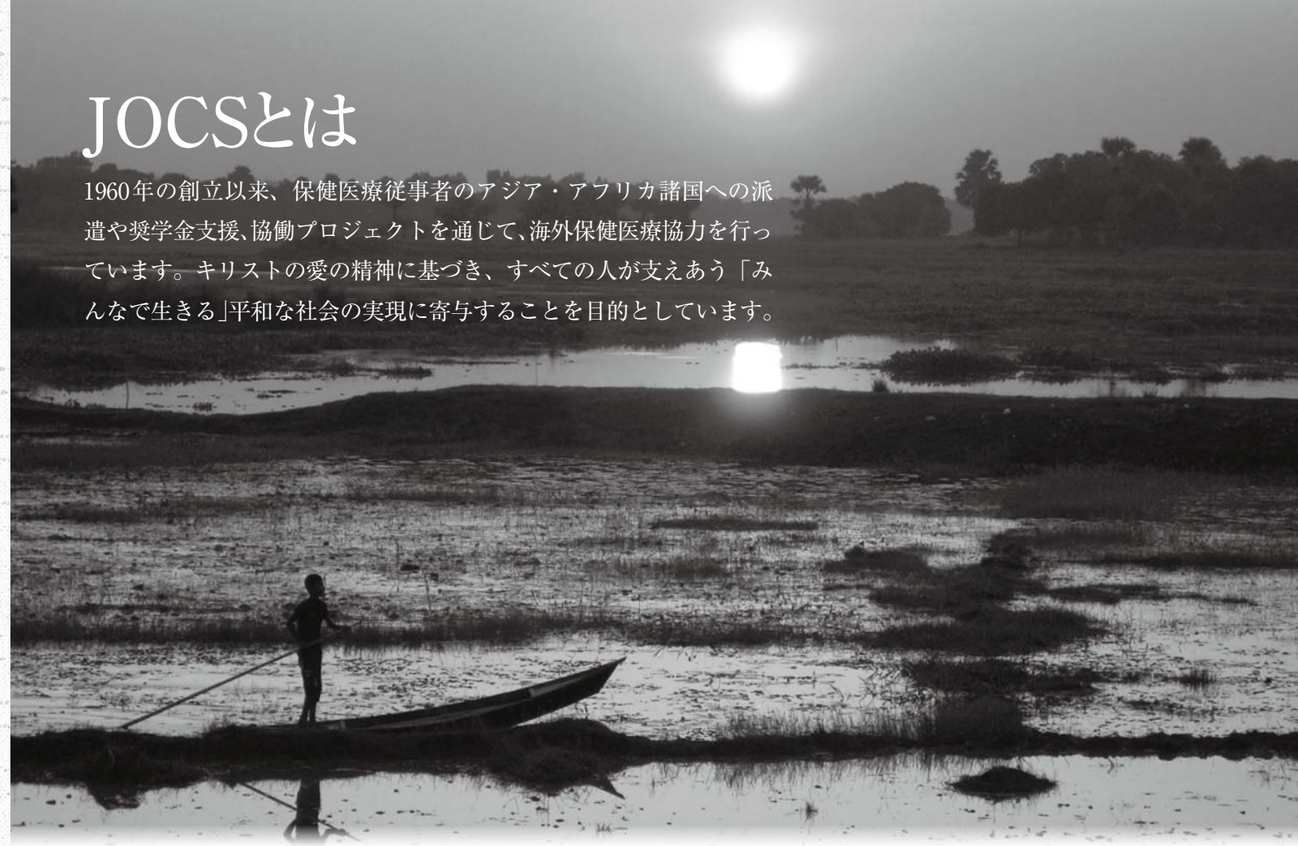
貧困・飢餓・差別などによって小さくされている世界中の女性や子どもたちの危うい「いのち」を守るためにも、ブラザー・フランクが示してくださった「平和」を切に求めて、皆さまとともに2014年度も新しい歩みを目指してまいりたいと願っております。

どうぞ、今後とも、皆さまの一層のご支援とご協力とをお願い申し上げます。

公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会
会長 小島荘明

目次

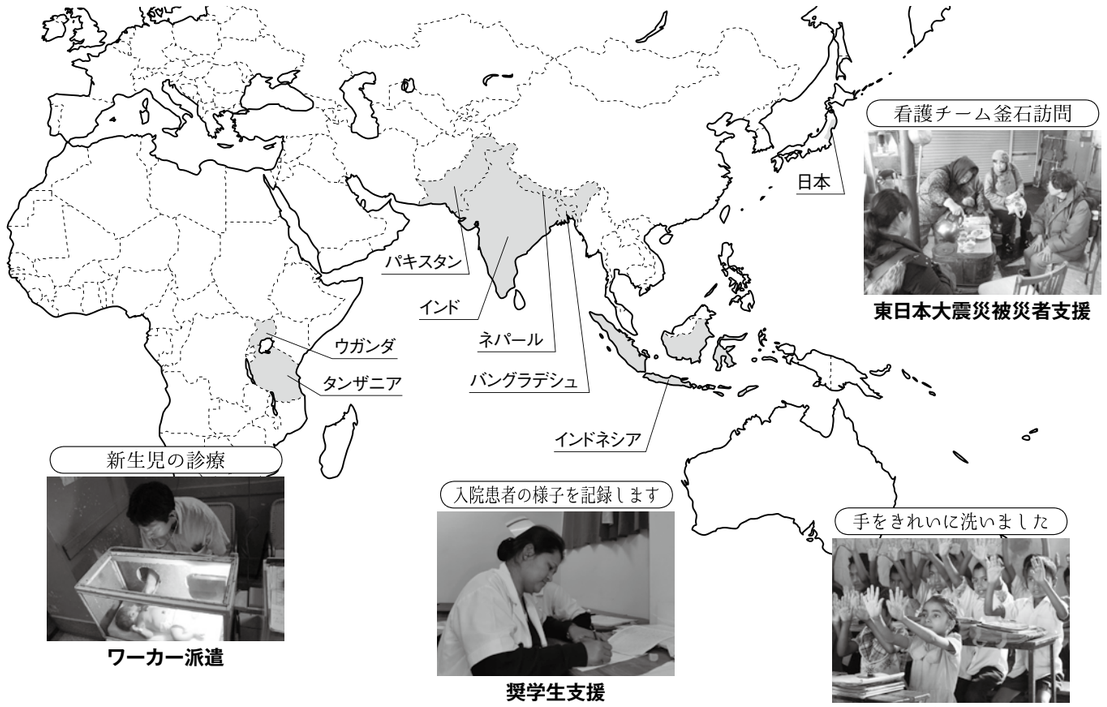
2	会長挨拶	12	国内の動き
3	2013 年度活動地・支援先	15	ワーカー育成事業
4	ワーカー派遣	16	会計報告
6	奨学金支援	18	JOCS5 カ年計画 2013
8	協働プロジェクト（プロジェクト・りとる）	19	会員数、及び役員
10	東日本大震災被災者支援	20	支援方法



JOCSとは

1960年の創立以来、保健医療従事者のアジア・アフリカ諸国への派遣や奨学金支援、協働プロジェクトを通じて、海外保健医療協力を行っています。キリストの愛の精神に基づき、すべての人が支えあう「みんなで生きる」平和な社会の実現に寄与することを目的としています。

●2013年度　活動地･支援先



ワーカー派遣（P 4-5）：パキスタン、バングラデシュ
奨学金支援（P6-7）：インド、インドネシア、ネパール、バングラデシュ、ウガンダ、タンザニア
協働プロジェクト（P8-9）：バングラデシュ、タンザニア
東日本大震災被災者支援（P10-11）：岩手県釜石市、福島県いわき市、福島県内児童養護施設、宮城県仙台市

ワーカー派遣

アジア・アフリカの地域の人々とともに歩む

派遣されたワーカー（保健医療従事者）は、地域の人々とともに、喜びや苦労を分かち合いながら、いのちと健康をまもるために活動します。任期終了後も、派遣先団体や地域の人々によって活動が引き継がれていくことを目標としています。

2013年度は長期ワーカーをバングラデシュに2名、パキスタンに1名、短期ワーカーをバングラデシュに1名派遣しました。長期ワーカーが現地に溶け込むにつれて、活動の成果がますます上がってきています。

パキスタン

パートナー団体（場所）

聖ラファエル病院

（パンジャブ州　ファイザラバード）

マリアの宣教者フランシスコ修道会の修道女たちによって1948年に始められました。毎日100人近くが外来を訪れます。その9割は女性のため、女性のための病院として地域で知られています。

派遣の背景・目的

パキスタンでは、新生児（生後1カ月未満）死亡率がとても高く、WHO（世界保健機関）2012年の統計によると、その数は出生数1,000人あたり、36人（日本は1人）。聖ラファエル病院で新生児が亡くなる原因のほとんどは、早産児（特に在胎28週未満）、極低出生体重児、新生児仮死などです。

派遣された医師は、新生児をまもるため、新生児室のスタッフに知識や技術を伝えることを目指しています。

派遣ワーカー（職業）

青木盛（しげる）ワーカー（医師）

2013年度の主な活動内容と成果

週6日の外来診療、入院児のケア、新生児室の回診と病的新生児の治療を行っています。新生児室では看護スタッフと協力し、重症の呼吸障害の新生児に対して人工呼吸器の管理を行い救命することができました。またプロジェクト費でビリルビンメーターを購入しました。これまでは検査に必要な採血量が多く、特に低出生体重児の黄疸の検査が困難でした。しかし、新しい機材の導入によって、微量の採血で測定が可能となり、赤ちゃんへの負担が減り、新生児黄疸の早期発見・治療に役立てられています。

2014年度に任期を終了するため、新生児室で働くスタッフへ業務の引き継ぎを進めています。またスタッフの育成のため、JOCS奨学金の新規申請に向けて準備を進めています。

バングラデシュ

パートナー団体（場所）

PCC（プロティボンディ コミュニティ センター）（マイメイシン）

SMSM シスターズ　バングラデシュ　（ダッカ）

派遣の背景・目的

バングラデシュの貧しい地域に住む障がいのある人々は、リハビリテーションを受ける機会がほとんどありません。JOCSは理学療法士や作業療法士を派遣し、障がいをもって生きる人々の支援のために、トレーニングやリハビリテーションを提供し、貧しい地域で働く理学療法従事者に技術指導を行っています。

派遣ワーカー（職業）

山内章子（あやこ）ワーカー（理学療法士）

石本馨短期ワーカー（作業療法士）

2013年度の主な活動内容と成果

山内ワーカーが技術指導を行ってきた理学療法従事者たちが、その技術を認められ、所属を得て給料をもらえる立場になりました。現在は、彼らに対して、障がいのある人々に、どのような治療を行なったらよいか具体的な指導を行っています。また、障がい当事者の女性たちが、社会の中で仕事がしやすいように支援し、仕事への意欲があがるように環境を整えています。

パートナー団体（場所）

ラルシュ・マイメンシン　コミュニティ（マイメイシン）

派遣の背景・目的

ラルシュ・マイメンシンは、障がいがあり、住む家のない人々のために家を提供しています。JOCSワーカーはこの家がバングラデシュの法律によって守られ、障がいのある人が仕事を持っていきいきと生活できるように環境を整えています。また、地域のなかで障がいがある人とない人が共に生活していくことができるように支援しています。

派遣ワーカー（職業）

岩本直美ワーカー（看護師）

2013年度の主な活動内容と成果

知的な障がいのあるメンバーたちや、アシスタントたちが、個性や賜物に応じてコミュニティでの役割や責任をどんどん与えられ、研修などを受けることで豊かに成長しました。また、コミュニティの長期的展望を考え、ダッカにおいてもトラスト（公益信託）として法的認可を受けました。これにより他県でも新しいラルシュを創ることが可能となりました。

ラルシュのメンバーとアシスタントでお皿洗い

奨学金支援

将来を担う人材を育てる
～保健医療従事者の育成のために～

アジア・アフリカの国々には、人々が十分な保健医療サービスを受けにくい地域が多くあります。JOCSでは、そのような地域で働く保健医療従事者に、奨学金の支給を通して研修の機会を提供することで、その地域の保健医療レベルの向上に協力しています。研修後に自らの地域にとどまり、その地域の人々のために働きたいと願う人を奨学生として選んでいます。

ウガンダの元奨学生からのメッセージ

パトリック・アモッティ
（ウガンダ　南ルェンゾリ大司教区 ムシェネネ診療所）

私は小さい時から医者になりたいと思っていましたが、家の事情で進学をあきらめました。でも、医療の仕事に関わりたいと思い、地元の高校を卒業後、ムシェネネ診療所の所長に頼みこんで看護師手伝いとして働かせてもらっていました。働き始めて6年目の時JOCSの奨学金によって勉強の機会を得て、あこがれていた准看護師になることができました。

今、私は准看護師として同じ診療所で働いています。准看護師の勉強を通して、看護の知識だけでなく地域保健の考えも学ぶことができました。この診療所は貧しい地域にあります。この地域に病気が多いのは、貧しさのために栄養のある食べ物を十分とることができないためではないかと考えました。そこで今、お金をかけずに栄養のある物を食べられるように、「キッチンガーデン」というアイデアを地域に広めようとしています。キッチンガーデンとは、台所の周囲の小さな空き地に、炊事の残り水を使って野菜を栽培することです。

このような活動を進めるため、JOCSの奨学金を受けた仲間たちと一緒に団体をつくりました。一人ひとりの力は小さくても、仲間と一緒に活動することで大きな力になるからです。地域の人たちが自分たちの力で健康を手に入れられるように、私たちは活動を進めていきたいと思っています。

皆さんのご支援が、診療所に来る患者さんはもちろん、地域の人たちにも健康をもたらしています。ご支援をありがとうございました。

2013年度は79人の保健医療従事者に奨学金を支給しました。うち23人は2013年度に研修を修了し所属団体での勤務を開始し、残りの56人は2014年度も研修を継続します。

奨学金申請の傾向としては、基礎教育への申請が多い国（ウガンダやタンザニア）と、専門分野や修士への申請が増えてきた国（インドネシアやネパールなど）があります。

2013年度の委員会では、奨学生選考方針や申請書、報告書様式の検討と見直しを行いました。今後、「5カ年計画2013」に基づいたJOCSの活動重点国を理事会で決定するので、奨学生の選考方針についてはその後再度検討することとしました。ワーカー派遣や協働プロジェクトなど他プロジェクトとの連携をとりながら新しい方針を決定します。

● 2013年度奨学金支援

	国名	支援先	奨学生数	研修内容	各国の奨学金応募の特徴	合格者数/申請者数
アジア	インド	クリスチャン・フェローシップ病院	4名	看護学　1名 医学　1名 歯学　1名 臨床検査学　1名	例年、病院のニーズに合わせた申請があるが、13年度は応募がなかった。14年度にはまた申請がある見込みである。	0名/0名
アジア	インドネシア	*ICAHS傘下にある医療施設	15名	看護系　7名 （学士6名、修士1名） 医学　3名、 助産学　2名 薬学　1名 栄養学　1名 外科マネージメント1名	既に基礎的な分野での研修を終え、資格を持って看護師として病院で勤務しているものの、より専門的な分野の看護学や国の発展に伴って増加してきた疾病（糖尿病や高血圧症）について学ぶことを希望する応募者が多い。	1名/2名
アジア	ネパール	HDCS* LMN*アナンダバン病院 UMN*タンセン病院 タンセン看護学校 ティカプールキリスト教会 ラリトプール看護学校	18名	看護系8名（看護師1名、学士3名、修士4名） 公衆衛生　2名 ヘルスケアマネージメント修士　1名 経営学　1名 小児医学　1名 放射線診療　1名 薬学　1名 臨床検査　1名 医用画像工学　1名 理学療法　1名	保健医療現場では、既に基礎的な分野での研修を終えている職員が多く、学士・修士以上レベルの専門的な分野への応募が増えてきている。 医療の知識や技術だけでなく、病院の運営や地域保健医療をより効率的に行うため、経営やマネジメント分野を学ぶことを希望する学生も多い。	3名/5名
アジア	バングラデシュ	セントビンセント病院 *PIMEシスターズ チャンドラゴーナ・キリスト教病院	5名	看護師　3名 公衆衛生　1名 理学療法　1名	ワーカーの派遣先団体や、JOCSが長年関わりを持っている団体からの申請が大部分を占めている。	1名/1名
アフリカ	ウガンダ	チオコ病院など*UPMB傘下の医療施設と、Reach Out(エイズ患者のための施設)	24名	看護系9名（准看護師2名、看護師4名、修士2名、教員1名） 助産師　3名 医学　7名 検査技師　3名 麻酔学　2名	遠隔地など医師の数が十分でない地域からの医師の申請が多く見られる。学費は他の資格と比べ高額だが、その重要性を考慮しJOCSは支援を決めた。	8名/28名
アフリカ	タンザニア	タボラ大司教区保健事務所の傘下にある11の保健医療施設	13名	看護師・助産師　9名 医学　2名 看護師　1名 臨床検査　1名	医療従事者の数が不足しており、基本的な短期研修を受けただけで助手として勤務している職員も多い。そのため、看護師・助産師など基礎的な分野での研修の希望が多い。	2名/6名

*ICAHS-Indonesia Christian Association for Health Services（インドネシアキリスト教保健サービス協会）
*HDCS-Human Development and Community Services（ネパールのキリスト教系NGO）
*LMN-The Leprosy Mission Nepal（ネパールでハンセン病患者のために活動するキリスト教系国際NGO）
*UMN-United Mission to Nepal（ネパール合同ミッション- ネパールで活動するキリスト教系国際NGO）
*PIMEシスターズ-Pontificio Istituto Missioni Estere（カトリック・ミラノ外国宣教会）
*UPMB-Uganda Protestant Medical Bureau（ウガンダプロテスタント医療連盟）

協働プロジェクト（プロジェクト・りとる）
（Project LITTLE=Living together with the People）

現地の力を引きだす!

現地の人々や現地団体が主体となって行う保健医療活動に協力しています。現地の力を活かしたJOCSの新しい協力の形です。

2013年度は、バングラデシュでの学校保健教育プロジェクトの継続に加え、タンザニアで診療統計分析能力強化プロジェクトを開始しました。また、カンボジアでも新たな実施に向け調査を開始しました。

バングラデシュで協働プロジェクトを開始してから4年がたちました。

保健の授業では、手洗いや歯磨き、入浴、掃除などの個人の衛生行動、風邪や腹痛の原因や予防方法、体に必要な食べ物など、子どもたちの学年に応じた内容を教えています。衛生面において、子どもがより望ましい行動をとるようになったこと、腹痛や皮膚病などの病気にかかる子どもが減少したことなどが、現地の教員たちから報告されています。

TOPICS カンボジアで協働プロジェクトをはじめます。

バッタンバン司教区のヘルスセンターの活動視察と関係者インタビューを実施しました。2014年度の協働プロジェクト開始に向けて、準備を進めていきます。

学校保健教育プロジェクト（バングラデシュ）

「バングラデシュの子どもたちに健やかな成長を届けたい」

パートナー団体

BDP（ベーシック　ディベロップメント　パートナーズ）

対象地

バングラデシュ　ダッカ、プバイル

支援対象者

BDPの運営する学校に通う生徒（約3,000人）
ダッカ・ミルプール地区4小学校、ガジプール県プバイル地区10小学校、計14校

活動の背景

バングラデシュでは、22人に1人が5歳になる前に命を落としています（2013年世界子供白書）。子どもたちは、日本のように学校で保健衛生について学んだり健康診断を受けたりする機会をもたず、健康について学ぶことなく成長します。また、多くの女性が、自らの体身や妊娠について十分な知識のないまま十代で結婚、妊娠を経験し、若年出産のリスクにさらされています。

2013年度の主な活動内容と成果

2013年3月から学校での保健教育の授業を始めました。また、授業で指導する指導教本の改訂や教員向けの研修会などを行いました。授業に加え、子どもたちが自身の健康への関心を高めるため、年2回の身体測定とヘルス・フェスティバルを実施しました。ヘルス・フェスティバルでは、子どもたちによるパレードや、健康についての寸劇や歌の披露が行われます。今では、このイベントを地域の人たちも楽しみにしています。

6月には、プロジェクトの中間評価をダッカで行い、これまでの振り返りと今後の計画の見直しを行いました。これにより、プロジェクトに関わる人たちが当初の目的や意義を再確認し、これからの活動をより有意義なものにするために計画を修正することができました。

診療統計分析能力強化プロジェクト（タンザニア）

「診療データの収集、分析、フィードバックを目指す」

パートナー団体

タボラ大司教区保健事務所

対象地

タンザニア　タボラ大司教区

支援対象者

タボラ大司教区保健事務所とその傘下の11の保健医療施設（病院や保健センターなど）

活動の背景

来院来所した患者の人数、性別、病名などの情報を収集し、分析することは、その地域の保健医療状況を把握し、適切な対策を行うために非常に重要です。しかし、タンザニアでは医療統計の収集や分析、共有が十分に行われておらず、保健医療サービスの改善や強化が進まない状況にあります。

2013年度の主な活動内容と成果

各保健医療施設では、来院来所した患者の人数、性別、病名、予防接種、妊婦健診や出産の状況などに関する四半期毎および年次の情報を収集し、政府と大司教区保健事務所に提出しました。このデータは、地域の保健医療の状況の把握と必要な対策をたてるために利用されます。

11月、JOCS職員がタンザニアに出張し、タボラ大司教区の担当者とプロジェクトの進捗状況を確認しました。その際に、未回収のデータを収集するとともに、データ記入シートをより現状にあわせたものに改良しました。

保健医療施設毎に診療統計が整理されることで、タボラ大司教区内の他の地域との比較や流行している病気の傾向を知ることができるようになってきています。

東日本大震災被災者支援

被災者の方々に寄り添う

各地域の支援団体や社会福祉協議会などと連携しながら、それぞれの地域のニーズに合わせた活動を行っています。特に弱い立場におかれた人たちの支援や心のケアに力を入れています。
これらの活動は、東日本大震災被災者支援のための指定寄付としていただいた資金によって行うことができました（指定寄付会計報告は16ページ参照）。

建設が遅れている釜石市白浜地区の復興住宅（2014年３月）

釜石を訪問している看護師の感想

復興住宅は建設が遅れており、入居できた方とまだ入居できない方の差が見られます。もとからあった関係や格差に加え、災害によって広がった格差、つくられた格差に振り回されつつも、現状を受け入れ、前へ進もうとする方々の柔軟さ、力強さを感じました。少しでもおひとりおひとりが元の生活に近づけるよう、ささやかでもそのお手伝いができればと思っています。

岩手県釜石市

支援の背景

震災から3年が経ち、被災者の心のケアがますます重要になっています。加えて、長期化する復興支援に携わるスタッフやボランティアに対するケアも求められています。

支援対象者と支援内容

カウンセラーによる被災者の心のケアや支援者のケアに取り組んでいます。また、2013年度は4回、延べ20名の看護師を派遣しました。派遣された看護師チームは、仮設住宅や復興住宅、孤立集落の戸別訪問を行い、地元地域保健課と連絡をとりながら被災者の健康維持と心のケアを行っています。

成果

健康面でのケアはもちろん、外部者が訪問し、傾聴を行うことが被災者の助けとなっています。またカウンセラーによる支援者やボランティアに対するケアを提供できる団体は多くないため、この活動は被災地で実際に活動に携わっている支援者の大きな支えとなっています。

福島県いわき市

支援の背景

いわき市では、津波による被災者や原発事故による避難者が、仮設住宅で暮らしています。震災から3年以上が経ちますが、復興住宅の建設は、職人や資材不足等で遅れており、避難生活が長引いています。

支援対象者と支援内容

いわき市仮設住宅集会所に月2回、医師・保健師が訪問し、仮設住宅で暮らす方々の健康相談を行っています。

成果

血圧測定や健康状態の相談のほか、音楽にあわせての体操も毎回行いました。定期的に訪問してお話を聴き一緒に体を動かすことで、不自由な生活の中でも、ひととき心と身体をほぐしてもらえる機会をつくることができました。

福島県内児童養護施設

支援の背景

福島県内の児童養護施設には、様々な事情から親元に帰ることのできない子どもが生活しています。原発事故後の放射能の問題が施設の子どもや職員に及ばないよう、健康管理が必要になっています。

支援対象者と支援内容

特定非営利活動法人福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会をパートナー団体としています。施設で生活している人の個人被ばく線量測定、甲状腺検査を支援しました。

成果

個人被ばく線量を測定することで、被ばく線量が高い人は、その行動から原因を明らかにし、生活の仕方を工夫することができました。また、1年毎の甲状腺検査は、甲状腺の異変の早期発見のために役立てられています。

医師による甲状腺検査

宮城県仙台市

支援の背景

「地元を主体に」という考えのもと、地元団体の活動に対して支援を行いました。

支援対象者と支援内容

被災者支援を行っている日本キリスト教団東北教区被災者支援センターを支えるために、東北教区センター・エマオのスタッフの人件費をサポートしました（2014年3月末で終了）。

成果

被災者支援センター・エマオでは、被災家屋の修復や農業再開の支援、仮設住宅での交流イベントの企画、在宅被災者への支援などを行いました。

東北教区センター・エマオ　松本芳哉館長からのお手紙

スタッフの人件費を３年間ご支援いただき、感謝申し上げます。
東日本大震災後、東北教区センター・エマオはボランティアの基地となり、国内外から多くの方々が支援活動において下さいました。震災後は業務量も増え、JOCSからの人的ご支援に大いに助けられましたことを深く感謝します。

TOPICS 仙台・石巻を訪ねる旅（9月6日－7日）を実施しました。

参加者の声

被災された方から生の声を聞くことができたのは貴重な体験でした。この旅でたくさんのことを学び、今後自分には何ができるか考えるきっかけとなりました。この経験を友達や知人に伝えていくことも被災地を訪問した者にとって大切な役割だと思いました。

国内の動き

会員や寄付者、ボランティアの皆様の働きによって、
2013年度もアジア・アフリカでの活動を支えることができました。

青山ファミリーフェアで活動紹介をするインターンシップ生

JOCS事務局を通して海外支援を経験する

インターンシップ受け入れ

2013年度から、大学生のインターンシップの受入れを始めました。JOCS東京事務局のイベント企画・運営を通して、国際協力に興味のある学生に、国内から海外を支援することを経験してもらうことを目的としています。2013年度は2名の大学生が5月から3月まで活動しました。

インターンシップ生より

●それぞれのイベントで、企画から実施まで責任をもって担当できたことは大きな喜びです。事務局での作業の一つひとつが重要な仕事だとわかり、やりがいと責任をもって働くことができました。 温田彩心（ぬくだあやみ）さん（写真左）

●10カ月間、様々なところを訪問し、たくさんの方々にJOCSの活動を伝える機会をいただいたことは貴重な経験となりました。ワークショップを通して真剣に学んでいる高校生たちや、被災地訪問の旅の参加者の皆様、映画会に来てくださった方々からの声などを通して、様々な想いや考えを知ることができました。 桃野華恋（もものかれん）さん（写真右）

イベント

関西バザー（5月11日）
関西地区の多くのボランティアさんによる協力活動です。
約300人のご来場者があり、収益をJOCSに寄付いただきました。

青山ファミリーフェアに出展（5月25日）
青山学院初等部の児童と保護者に向けて、活動紹介をしました。
当日は6kgの使用済み切手が集まり、JOCSにご寄付いただきました。

映画会の開催
●関西JOCS2014映画会（2月11日）「僕のうしろに道はできる」
●JOCSチャリティー映画会（3月5日）「いのちの山河-日本の青空Ⅱ-」
映画と合わせてJOCSの活動を紹介をしました。

国際協力イベントに出展
グローバルフェスタ（10月5－6日）、ワンワールドフェスティバル（2月1日－2月2日）に出展しました。ブースを訪れてくださった方々に、JOCSの活動と使用済み切手運動のことを紹介しました。

関西バザーの様子

グローバルフェスタに出展

アジア・アフリカの現状を伝える

地区JOCS活動

地区JOCSは地域のJOCS会員と教会やYMCAなどで組織され、JOCSの活動を広めるために自主的な活動を行っています。2013年度の活動は以下のとおりです。

仙台	仙台地球フェスタに出展（9月15日）
足利	足利市民クリスマス（12月24日）
町田	教会バザーに出展（10月27日）
京都	チャリティコンサート（7月19日）
大阪	大阪JOCSカフェ（7月12日、10月26日）
神戸	乾眞理子元短期ワーカー報告会（7月6日）
芦屋	石本馨ワーカー報告会（11月24日）
四国高知	乾眞理子元短期ワーカー報告会（6月22日、6月23日）
	高知スタンプショウに出店（10月5日－10月6日）

大阪 JOCS カフェ

足利市民クリスマス

国内の学校との協働

千葉英和高校サマーキャンプ（8月）で、「健康」をキーワードにしたワークショップを実施しました。

講師派遣・事務局受入

アジア・アフリカの保健医療の現状や、JOCSの活動について学んでいただく機会を提供しています。当会事務局職員が教会や学校など各種団体へお伺いする講師派遣や、グループの事務局訪問受入を行っています。

2013年度講師派遣実績
小・中・高等学校…7
大学・専門学校…4
教会…4
その他団体（YMCAなど）…4
幼稚園…2

2013年度事務局見学受入実績
修学旅行訪問学習…2
その他、学校訪問学習…5
その他団体（社会福祉協議会など）…4

事務局を訪問した中学生の声（盛岡市立下小路中学校　高橋希実さん）

活動のお話を聞いて、使用済み切手運動に協力したいと思いました。使用済み切手を換金して、勉強できることは素晴らしい活動だと感じました。世界の国々の不公平をなくすために活動している人々がいることを忘れないように、心に留めておきます。

使用済み切手運動

はさみ１本からはじめる国際協力

JOCSでは、使用済み切手収集家の方々に切手を買い取っていただき、換金したお金を寄付・会費と合わせて海外の保健医療活動のために役立てています。

イベント

スタンプショウ（4月27日－4月29日）
浅草で、恒例のスタンプショウに出店しました。
切手部が、切手商が集うフロアーの一隅をお借りしてブースを出し、使用済み切手の販売を行いました。近年は、中国切手が大人気です。

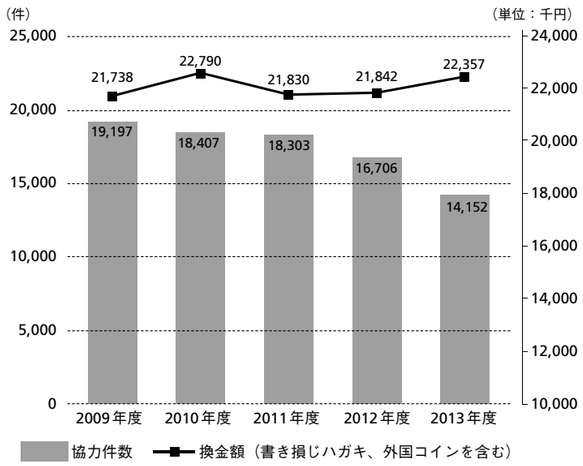
山口切手まつり（2月28日－3月2日）
使用済み切手運動を広める目的で、山口県防府市で開催しました。

2014年、JOCSの使用済み切手運動は50周年を迎えます。東京と大阪、それぞれで記念イベントを企画しています。

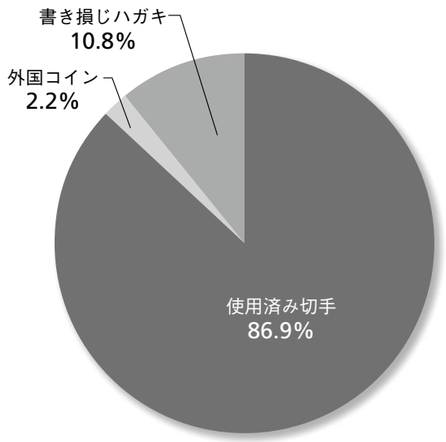
使用済み切手等収集状況

切手の使用量減少に伴い、協力件数も減少してきています。しかし、外国コインと書き損じハガキ収集による収入が増加し、それらを含めた換金額は５年前とほぼ変わっていません。2013年度は、書き損じハガキ収集キャンペーンを行ったことで、書き損じハガキによる換金額が増加しました。

●過去５年間の協力件数と換金額の推移



●2013年度 使用済み切手運動 換金額の内訳



TOPICS ホームページが新しくなりました!

2013年９月、ホームページをリニューアルしました。
活動のイメージをよりわかりやすくお伝えできるよう、トップ画面の写真と、ブログのコンテンツを増やしました。
今後もさらにコンテンツの充実に取り組んでまいります。

ワーカー育成事業

保健医療協力活動に携わる人材の育成を目的とし、2013年度は以下のプログラムを開催しました。

育成プログラム対象者 国際保健医療分野で働くことを目指す学生や保健医療従事者

海外保健医療勉強会

テーマ：「看護師の立場から国際協力～看護師の可能性∞～」
看護師の資格を活かして国際協力に関わってきた講師が、現場の活動やキャリア形成について語りました。

2013年 6月　タンザニアでの３年間の母子保健活動を通して
　　8月　看護の国際協力　カンボジアでの活動と帰国後のキャリア
　　12月　インドネシアでの保健医療活動の経験を通して

そのほかのテーマ
　　4月　感染症看護
　　9月　被災地におけるメンタルヘルスケア
2014年 3月　バングラデシュの田舎のクリニックで活動して

海外保健医療勉強会参加者より

途上国といわれる地域について知らないことばかりなので、またひとつ知ることができて嬉しいです。看護という道に足をかけたばかりなので看護師という仕事がこれほどまでに多様性があると知らず、自分の道は広く開けていると感じ、これからの将来にまたワクワクしています。

海外保健医療協力セミナー

2013年12月29日～30日　横浜市寿地区

テーマ：横浜寿地区で弱い立場に置かれた人々と活動する人たちを訪ね、その働く姿勢を学ぶ２日間。
今年度は越冬の炊き出しプログラムにも参加し、希望者は配食も行いました。

海外保健医療協力セミナー参加者より（一部抜粋）

これまではドヤ街というと遠くから避けて通り、近づかないようにしていたと思います。寿町に入る時は、少し緊張して怖々足を踏み入れた感じでした。
このセミナーでは、寿町についての説明を受け、日本社会の冷たさに気づかされ、最も弱い人の立場からどこをどう変えればよいかを考えることが重要であり、人間にとって優しさが大切であることを教えていただきました。
今回学んだことは、開発途上国で働くワーカーの姿勢と通じるものがありました。

血圧測定　越冬プログラムの健康相談にて

読書カフェ

国際協力に興味を持つ人が、気軽に集まって学べる場を提供することを目的として実施しました。2013年度は９回開催し、課題図書を読み、意見交換を行いました。
課題図書：『国際協力ってなんだろう：現場に生きる開発経済学』高橋和志・山形辰史　岩波ジュニア新書

2013年度会計報告

皆様のお支えにより、2013年度も海外での保健医療協力事業を遂行するとともに、東日本大震災被災者支援活動を実施できたことを感謝申し上げます。

公益法人の会計について

公益法人は、「貸借対照表」と「正味財産増減計算書」の作成が義務付けられています。貸借対照表とは、年度末時点での法人の資産、負債、正味財産の有高を示すものです。正味財産とは、資産から負債を引いた金額です。現金と預金のほか、未使用切手、パソコンや机などの備品も含まれます。活動の結果、正味の財産が1年間でどれだけ増えたのか減ったのかを、その原因（収益、費用）とともに表したのが「正味財産増減計算書」です。

JOCSの財務状況

2013年度、会費は会員の減少により約4％減少しました。また、一般寄付は前年度に比べて約2％減少しました。その結果、一般正味財産は520万円減少しました。

一方、東日本大震災被災者支援指定寄付や、お亡くなりになった支援者の方が奨学金事業のためにと遺してくださったご遺贈など、会費と一般寄付以外に個別の事業への指定寄付をいただきました。これらの寄付は指定正味財産として管理し、残額は次年度以降の指定事業に使用していきます。

2014年度は、ワーカー帰国報告会を通して新規会員を募集し、海外での活動を拡充することを目標にしています。

なお、ホームページ上で、より詳しい内容をご覧いただけます。またご希望の方には、2013年度事業報告・会計報告書、2014年度事業計画・予算書をお送りいたします（送料実費）。事務局までお申し付けください。

■貸借対照表 2014年3月31日現在（単位：円）

Ⅰ 資産の部		Ⅱ 負債の部	
1 流動資産		1 流動負債	8,216,682
現金預金	44,770,536	2 固定負債	45,370,429
貯蔵品	7,008,298	負債合計	53,587,111
前払金	1,001,390	**Ⅲ 正味財産の部**	
2 固定資産		1 指定正味財産	29,584,181
特定資産	576,707,555	2 一般正味財産	560,051,736
その他固定資産	13,735,249	正味財産合計	589,635,917
資産合計	643,223,028	負債及び正味財産合計	643,223,028

■東日本大震災復興支援指定寄付

寄付総額：23,139,835円

（2010年度70,000円、2011年度12,153,111円、2012年度6,088,125円、2013年度4,828,599円）

2013年度末までに使用した金額の内訳は、以下のとおりです。 （単位：円）

活動地	2011年度	2012年度	2013年度	合計
岩手県釜石市	1,588,740	1,900,595	1,854,956	5,344,291
福島県いわき市	55,290	945,745	449,570	1,450,605
福島県内児童養護施設	987,000	2,554,614	810,370	4,351,984
宮城県仙台市	877,760	960,600	936,000	2,774,360
その他	80,749	277,071	0	357,820
合計	3,589,539	6,638,625	4,050,896	14,279,060

残額8,860,775円は、2014年度以降の活動に使用させていただきます。

■正味財産増減計算書 2013年4月1日から2014年3月31日まで（単位：円）△はマイナスを表す

科目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
	海外保健医療協力事業	使用済み切手運動事業		
Ⅰ 一般正味財産増減の部				
1．経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 特定資産運用益	4,916,005	0	231,852	5,147,857
② 受取会費	16,066,530	0	10,711,019	26,777,549
③ 事業収益（使用済切手/書き損じハガキ含む）	520,850	22,356,877	0	22,877,727
④ 受取寄付金	86,017,985	0	8,675,640	94,693,625
⑤ 雑収益	285,754	14	2,500	288,268
経常収益計	107,807,124	22,356,891	19,621,011	149,785,026
(2) 経常費用				
① 事業費	120,722,570	11,991,329	0	132,713,899
海外派遣費	19,994,729	0	0	19,994,729
海外交流費	5,000	0	0	5,000
奨学金	9,678,740	0	0	9,678,740
協働プロジェクト費	2,981,214	0	0	2,981,214
海外出張費	843,049	0	0	843,049
国内活動費	10,654,682	3,143,532	0	13,798,214
災害救援復興	4,050,896	0	0	4,050,896
研究活動費	495,964	0	0	495,964
会議費	748,650	0	0	748,650
募金・寄付経費	4,280,605	0	0	4,280,605
人件費	47,228,868	3,834,472	0	51,063,340
事務所費	6,543,334	4,206,407	0	10,749,741
事務用品費	2,210,233	17,332	0	2,227,565
通信費	1,417,319	0	0	1,417,319
保険料	0	6,752	0	6,752
旅費交通費	257,420	0	0	257,420
諸費（租税公課）	0	195,300	0	195,300
退職給付費用	5,297,008	315,840	0	5,612,848
減価償却費	1,120,917	2,147	0	1,123,064
賞与引当金繰入額	2,913,942	269,547	0	3,183,489
② 管理費	0	0	21,453,567	21,453,567
人件費	0	0	11,807,204	11,807,204
事務所費	0	0	1,635,829	1,635,829
事務用品費	0	0	552,539	552,539
会議費	0	0	1,040,956	1,040,956
通信費	0	0	354,324	354,324
保険料	0	0	163,098	163,098
支払手数料	0	0	4,046,594	4,046,594
旅費交通費	0	0	64,354	64,354
退職給付費用	0	0	779,955	779,955
減価償却費	0	0	280,229	280,229
賞与引当金繰入額	0	0	728,485	728,485
経常費用計	120,722,570	11,991,329	21,453,567	154,167,466
当期経常増減額	△ 12,915,446	10,365,562	△ 1,832,556	△ 4,382,440
2．経常外増減の部				
(1) 経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用計（什器備品除却損）	3,316	0	829	4,145
当期経常外増減額	△ 3,316	0	△ 829	△ 4,145
他会計振替額	6,000,000	△ 6,000,000	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 6,918,762	4,365,562	△ 1,833,385	△ 4,386,585
法人税、住民税及び事業税	0	849,300	0	849,300
当期一般正味財産増減額	△ 6,918,762	3,516,262	△ 1,833,385	△ 5,235,885
一般正味財産期首残高	516,427,066	7,023,932	41,836,623	565,287,621
一般正味財産期末残高	509,508,304	10,540,194	40,003,238	560,051,736
Ⅱ 指定正味財産増減の部				
① 受取指定寄付金	24,669,398	0	0	24,669,398
② 一般正味財産への振替額	△ 4,050,896	0	0	△ 4,050,896
当期指定正味財産増減額	20,618,502	0	0	20,618,502
指定正味財産期首残高	8,965,679	0	0	8,965,679
指定正味財産期末残高	29,584,181	0	0	29,584,181
Ⅲ 正味財産期末残高	539,092,485	10,540,194	40,003,238	589,635,917

5ヵ年計画2013（2013－17年度）

ＪＯＣＳは、第5回海外保健医療協力者会議※（2012年12月29日～31日）での協議を受けて、ＪＯＣＳのビジョン・使命・目標を確認し、5ヵ年計画2013（2013－17年度）を策定しました。以下はその主な内容です。

※ＪＯＣＳは創立以来約10年毎に、次なる10年の方針決定のための会議を開催しています。

基本方針

ビジョン

すべての人々の健康といのちがまもられる世界

使命

本会はイエス・キリストの教えに従い、困難の中にある人々の健康といのちを守り、苦悩・喜びを分かち合う

目標

一定数のワーカーを派遣し、奨学金事業及び協働プロジェクトを強化すると共に事業間の連携が活発に行われる。各事業を通して世界のキリスト教会との連携と他宗教との対話が促進される。これらの事業を実施するために必要な会員に支えられ、寄付を得て、収支均衡となる。

アクションプラン

5ヵ年計画の目標を達成するために、大きく2つの分野―①海外事業部、②マーケティング部で、実施すべきことを下記のとおり設定しました。

1.海外事業部で実施すべきこと－3項目

- ワーカー派遣事業は、何よりも弱くされた人々と共に生きることを喜びとし、困難を伴う活動に取り組む保健医療分野の人材を発掘・育成し派遣する。
- 女性・子ども・障がいがある人々・少数民族・HIV/AIDSと共に生きる人々・医療過疎地にある人々を重点対象として、奨学金事業及び協働プロジェクトを行う。
- それぞれの事業推進に必要なガイドラインなどを作成する。

2.マーケティング部で実施すべきこと－5項目

- 会員数を一定数維持する。
- 日本の子どもたちが世界の現状を知り、活動に参加する機会を促す。
- ＪＯＣＳが共に生きる人々の苦悩や喜びを日本の人たちと分かち合う。
- ボランティアや支援者の活動が活発化するような取り組みを行う。
- 財政を健全化する。

2013年度　定時社員総会

JOCS会員数

4,254名（うち社員会員402名）2014年3月31日現在
2012年度比　4.9％減（△217名）

JOCS役員

会　　長	小島荘明（医師、大学名誉教授）
常務理事	畑野研太郎（医師）
理　　事	植松 功（伝道者）
	大江 浩（JOCS事務局長）
	大友 宣（医師）
	高梨愛子（医師）
	仁科晴弘（医師）
	平本 実（団体職員）
	森田 隆（JOCS海外事業部長）
	渡部芳彦（歯科医、大学准教授）
監　　事	小澤英輔（医師）
	辻本嘉助（医師）